

—アジア共通の GAP のプラットフォームづくりを目指して—

## JGAP Advance は ASIAGAP へ！

GFSIのBenchmarking Requirements Version7に対応して  
JGAP Advanceを改定し、改名

一般財団法人日本 GAP 協会（代表理事：荘林幹太郎）は、GFSI Benchmarking Requirements Version7に対応した JGAP Advance の改定版となる「ASIAGAP」を本日公表いたしました。また、あわせて JGAP Basic の改定、改名も実施します。2017年8月1日より運用を開始しますが、その概要は次の通りです。

**ASIAGAP**（旧 JGAP Advance）・・・GFSI 承認の国際規格として展開することを目指すスキーム。アジア共通の GAP のプラットフォームとして位置づけ、「ASIAGAP」という名称に改名。

**JGAP**（旧 JGAP Basic）・・・既に多くの関係者の支持を得ている日本の標準的な GAP であり、名称から Basic をはずし「JGAP」に改名。

### ◆ ASIAGAP への改定の経緯とポイント

JGAP Advance は、GFSI の承認による国際規格化を目指すスキームとして昨年9月より運用を開始して以来、着々と実績を積み上げ、承認申請の準備を進めてきました。そのような中、今年の2月、承認の基準となる GFSI Benchmarking Requirements が新たな版（Version7）に改定されました。今回の改定はそれに対応するためです。

また、高温多湿など欧米にはない農業生産条件を持つアジア農業の特徴に対応するとともに GAP の普及に必要な不可欠な指導者育成を推進することを通じて発展してきた日本発の GAP が、今後 GAP の一層の普及が期待されるアジアにおいて主流の認証の仕組みとなり、アジア共通の GAP のプラットフォームづくりに貢献していくことを「ASIAGAP」というスキーム名により明確にしました。

問合せ先：荻野（おぎの） TEL 03-5215-1112 FAX 03-5215-1113 E-mail: [info@igap.jp](mailto:info@igap.jp)

（取材を希望される場合は、下記を記入の上、FAX または E-mail で送付ください。）

御社名	部署名	御名前
住所	電話番号	

◆ JGAP (旧 JGAP Basic) 改定のポイント

JGAP Advance と同様、昨年 9 月より運用を開始している JGAP Basic については、基準の連続性も重要なことから特段の改定は行いませんが、JGAP Advance の名称変更に伴い、スキーム名を 10 年の歴史を持ち多くの生産者や食品流通業者、食品製造業者からの支持を得てきた JGAP に変更しました。

◆ ASIAGAP と JGAP の認証農場マーク

JGAP は製品に付けることができる認証農場マークを持つことが特徴のひとつであることから、ASIAGAP にも新たなマークを用意しました。このマークが日本、そしてアジアにおける消費者の GAP への認知度を高める一助となることを期待しています。



ASIAGAP  
認証農場  
マーク



JGAP  
認証農場  
マーク

(参考 1) GFSI について

GFSI (Global Food Safety Initiative : 世界食品安全イニシアティブ) とは、食品安全の向上と監査コストの適正化を目的とした民間事業者による国際的な組織です。GFSI は食品安全スキームの承認を行うための基準を持っており、本年 2 月末に新版の GFSI Benchmarking Requirements Version7 が公表されました。同 4 月末にはマイナー改定となる Version7.1 が公表されています。

(参考 2) 一般財団法人日本 GAP 協会について

日本 GAP 協会は、日本の業界標準となり、かつ世界に通用する日本の本格的な第三者認証の GAP を創り、普及することを目的として 2006 年より活動してきました。2017 年 3 月末現在、JGAP 認証農場数は 4,113 農場、独自の研修制度を通じて育成してきた JGAP 指導員は 3,926 名おられます。また、これまでの青果物、穀物、茶に加え、新たに JGAP 家畜・畜産物の運用も開始しております。

(参考 3) 自民党の提言について

自民党「規格・認証等戦略に関する提言」(平成 29 年 5 月 19 日) では、GAP が大きく取り上げられており、目標と具体的施策として以下の内容が記載されています。

- GAP 認証を平成 31 年度末までに現状の 3 倍以上とすることを旨とする。その際、国際水準である JGAP または GLOBALG.A.P. を推奨する。
- 日本発の規格である JGAP について、国際的な標準化過程 (ルールメイキング) への参画を目指すため、できるだけ早期の GFSI 承認に向けて官民挙げてあらゆる努力を行う。併せてアジアで主流の認証の仕組みとなるよう取り組む。